

廣田川の改修

廣田川は、流域面積約101.1平方キロメートル、河川延長約19.9kmの一級河川であり、流域内には東海道本線や国道248号などの重要交通網が整備され、岡崎市南部を始め市街化が急激な勢いで進んでおり、今後も進行すると予想される。上流端（14km）から占部川合流点（7km）までの上流区間では、赤川、相見川、柳川、砂川、占部川を合流して流下している。川幅は、上流端より赤川合流点（10km）までは約20mであり、赤川合流後から柳川合流（8km）までは約40m～50mであるが、柳川合流後の川幅は狭くなり、占部川合流（7km）までは、約35m～40mとなっている。占部川合流後（7km）から吉良頭首工（-1km）までの中流区間では、安藤川、須美川を合流して流下しており、安藤川合流後は矢作古川と併走している。中流区間の川幅は約40m～55mであり有堤河道である。

廣田川の水行については治水工事にも関わらず問題があったようである。一帯は平坦で、平均1/2,500という緩勾配である。近世以降の新田開発により水害に悩まされていた菱池でも、1883（明治16）年に愛知県が廣田川改修に着手し、菱池の干拓を行って50町歩余の土地を造成した。1885（明治18）年には廣田川の川底を6尺ほど切り下げ、1890（明治23）年には廣田川の上流から中島地内までの川底浚渫（しゅんせつ）が進められた。これらは菱池沼干拓・耕地化と絡んでのことであった。占部川や東部丘陵地から流下する諸川はすべて廣田川に悪水として集まってくるのは、地形からしてやむを得ないことである。従って、廣田川悪水処理は地域農民の死活問題として何百年間もわだかまってきた。これらの問題解決のための廣田川悪水普通水利組合の設立については、1910（明治43）年に設立総会まで開催したが、流域関係村の合意が得られず全域市町村を包括した組合の成立までには至らなかった。

1922（大正11）年の矢作古川の県営改修を契機に廣田川改修が再び議論され、豊坂村長らが音頭を取って、流域全市町村参加の組合結成を呼び掛けたが、1928（昭和3）年になってやっと廣田川悪水普通水利組合が発足した。これにより1928（昭和3）年から1932（昭和7）年にかけて改修が行われた。

また、1944（昭和19）年12月の東海地震および1945（昭和20）年1月の三河地震により損傷を受けたので1952（昭和27）年より工事を開始し、11年の歳月を費やして、1962（昭和37）年11月に完工した。素菱鳴（すさのお）神社の近くに廣田川を改修した2つの記念碑（1933（昭和8）年、1963（昭和38）年建立）が立っている。

2014（平成26）年8月28日から30日にかけての大雨は、日本列島を縦断する形で停滞していた前線の影響により、南からの湿った空気が愛知県の全域に流れ込み、次々と至る所で雷雲を発生させ、愛知県内各地で時間雨量100mmを超過し、特に岡崎市にいたっては、29日未明には時間雨量146.5mmと観測史上最大の猛烈な雨を記録し、各地で河川氾濫や内水などによる甚大な浸水被害をもたらした。廣田川上流部の幸田町菱池地内では、廣田川の堤防決壊により水田を中心に甚大な被害を受けた。



廣田川と相見川合流地点



廣田川菱池地区



廣田川中島地区



破堤地点と菱池地区の浸水状況



廣田川改修記念碑群 20150725



1933年建立 20150725



1963年建立 20150725

本項は以下の資料を引用している。

[碑は語る岡崎平野の治水と農業]

著者： 渋谷 環

発行者： 渋谷 環

発行日： 2005（平成 17）年 9 月 19 日

印刷所： ブラザー印刷（株）